

ブルーベリー収穫サポーターズ結成

富谷町は6月28日、町特産品のブルーベリーの収穫作業を支援する「ブルーベリーサポーターズ」を結成した。高齢化などで摘み取りが困難な農家を手伝う町民によるボランティア団体だ。



サポーターの伊藤富子さん（左）と熊谷たい子さん（右）

同町では1983年、米の転作作物としてブルーベリーの栽培が始まった。現在、生産組合の農家24戸が計4.2畝で栽培。県の「農薬・化学肥料節減農産物」に認証され、5月の伊勢志摩サミットで提供されたジュースにも使用されるなど認知度も上がっている。

一方、高齢化や収穫時期が夏場1カ月に集中するため、成熟しても実が摘み取られないなど供給不足が起きている。そこで町はボランティア募集を決め、応募のあった14人を登録。ボランティアは生産現場での摘み取り実習を経て、8月中旬ごろまで作業する。

サポーターの1人の熊谷たいさんは、3月に開かれた町主催のブルーベリー栽培講習会で植栽体験に参加。それをきっかけに「恩返しができれば」との思いから応募した。「旬のブルーベリーの収穫の楽しさを味わいながら、役に立てることはうれしい」と収穫したばかりのブルーベリーを目の前に笑顔で語る。

町担当者によると、今年は生育も順調で昨年（約1.5ト）以上の収穫が見込まれており、「サポーターの力を借りて収穫量が上がれば」と期待を込めている。